

～平成19年度財政健全化判断比率を公表します～



にかほ市の財政事情について

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、平成19年度決算におけるにかほ市の「財政健全化比率【表1】および資金不足比率【表2】」を算定しましたので、市民の皆さんにお知らせします。

この比率は、毎年度、監査委員の審査を受け、議会に報告し公表することが義務付けられているもので、国が示した判断基準により、市の財政が、「健全団体」、「早期健全化団体（注意信号状態）」、「財政再生団体（破たん状態）」のいずれの状態にあるのかを判断することができます。

ことしの3月に平成18年度決算における比率を試算し、お知らせしていますが、そのときと同様、平成19年度の比率も国の基準以下となっています。

なお、企業会計の経営状態を判断する資金不足比率も算定しましたが、いずれも資金不足は発生していませんでした。

以上のことから、本市は健全財政を維持していると受け止めています。

【表1】健全化比率

	にかほ市(19年度)	早期健全化基準	財政再生基準
①実質赤字比率	— %	13.52 %	20 %
②連結実質赤字比率	— %	18.52 %	30 %
③実質公債費比率	16.1 %	25 %	35 %
④将来負担比率	185.1 %	350 %	

- 【実質赤字比率】 普通会計（にかほ市の場合はイコール一般会計です）での赤字比率です。（家計に例えれば、年収に占める年間の赤字額の割合）
- 【連結実質赤字比率】 普通会計に、その他すべての会計（例：国民健康保険、診療所、下水道、ガス、水道など）を含めた連結ベースでの赤字比率です。
- 【実質公債費比率】 普通会計に、その他すべての会計、一部事務組合などの会計を含めた連結ベースで、公債費による財政負担を見るための比率です。（家計に例えれば、年収に占める年間の借金返済額の割合）
- 【将来負担比率】 普通会計に、その他すべての会計、一部事務組合などの会計、さらに、にかほ市開発公社（ねむの丘）、にかほ市観光開発株式会社（はまなす）を含めた連結ベースで、普通会計が将来負担すべき実質的な負債（借入金残高など）の財政負担を見るための比率です。（家計に例えれば、借金などが年収の何年分に相当するかを示す割合）

※実質赤字比率及び連結実質赤字比率は、赤字額が無い場合「— %」で表しています。

【表2】資金不足比率

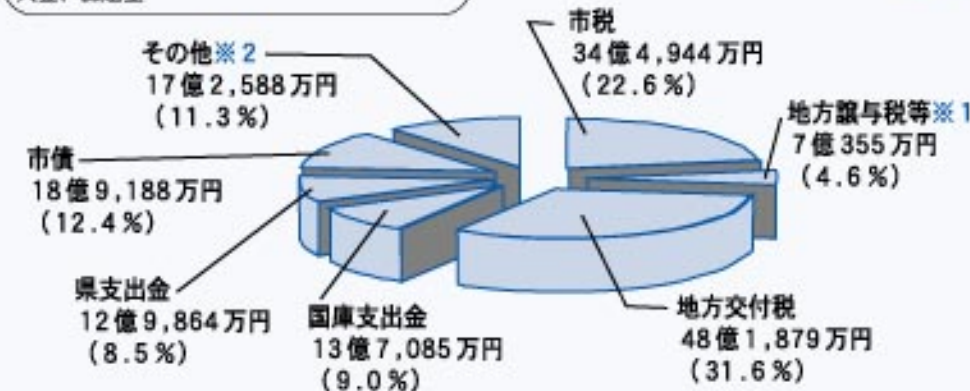
(単位：千円)

会計名	にかほ市(19年度)	事業の規模	経営健全化基準
ガス事業会計	— %	343,342	各会計とも 事業規模の 20.0 %
水道事業会計	— %	435,514	
簡易水道特別会計	— %	28,238	
公共下水道事業特別会計	— %	194,626	
農業集落排水事業特別会計	— %	87,860	

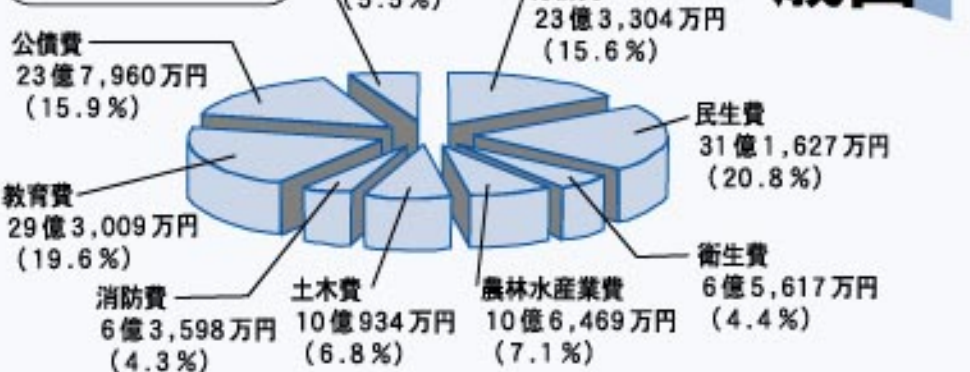
【資金不足比率】 各企業会計の「事業の規模」に対する資金の不足額の比率です。資金不足額がないため、「— %」で表しています。事業の規模とは、営業収益の額に相当します。

※1 地方譲与税等…地方譲与税、利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、自動車取得税交付金、交通安全対策特別交付金、地方特例交付金

※2 その他…分担金および負担金、使用料および手数料、財産収入、寄附金、雑収入、繰入金、繰越金



※3 その他…議会費、商工費、労働費、災害復旧費



項目	歳入計(円)	歳出計(円)	実質収支額(円)
国民健康保険事業勘定	3,314,283,648	2,928,578,532	385,705,116
国民健康保険施設勘定	185,586,564	169,392,867	16,193,697
老人保健	3,102,243,416	3,132,725,606	△30,482,190
簡易水道	88,470,884	85,464,781	3,006,103
公共下水道事業	1,987,948,288	1,960,700,096	27,248,192
農業集落排水事業	508,402,674	497,178,555	11,224,119

※老人保健の歳入歳出差引不足額は、翌年度歳入で繰上充用しています。

項目	歳入計(円)	歳出計(円)
ガス事業	収益的	383,560,281
	資本的	9,737,450
水道事業	収益的	463,562,526
	資本的	251,170,570

※ガス事業・水道事業とも不足する額は、過年度分損益勘定留保資金などで補っています。

監査委員審査意見
地方財政を取り巻く環境は、依然として厳しい状況にあることから、引き続き財政運営の健全化に向けて努力されることを望みます。

平成19年度にかほ市会計決算

平成19年度一般会計の決算額は、歳入が152億5,903万円（前年度比11億1,214万円増）、歳出が149億4,848万円（同12億1,753万円増）となり、歳入歳出差引額から、翌年度への繰り越し財源を除いた実質収支額は、3億552万円（同1億542万円減）の黒字となっています。

各特別会計の歳入歳出は次のとおりです。